

カフ上部吸引器ヨックス SSD を在宅人工呼吸器患者に使用して

武藤恵美子・前田恵子

在宅医療において気管切開下人工呼吸器を装着した患者に対する痰の吸引は、主に家族に委ねられる。しかしこの吸引があまりに頻回であると家族の生活が成り立たない。家族にも生活がある。24時間365日は大変である。気管の吸引をして口腔の吸引をしたらまた痰がゴロゴロ言い出し気管・口腔、ときりがないと、いっそのまま吸引器にチューブをつなげばなしにしたい！という衝動にかられたという話を聞くことは多い。そんな家族の苦労を見ていると、車の自動運転が開発される現代においてなお、地味にマンパワーに依存され続ける吸引を機械が助けてくれないかと、機械による自動吸引を検討してみた。

気管切開下在宅人工呼吸器を使用中で、口腔からの分泌物が多く吸引が頻回の患者に、ヨックス SSD を用いて口腔の間歇持続吸引を行った。吸引には気管・カフ上部・口腔・鼻腔への吸引があるが、まずは最も危険が少ないと考えられる口腔吸引を試した。ヨックス SSD は、本来はカフ上部吸引器であるが、それを選んだ理由は、現在日本で痰の吸引を目的とした医療機器としては唯一の間歇的持続吸引器であることと、開発のコンセプトが看護師の吸引負担を軽くするため、というのが今回の目的に合っていると考えられたからである。

まず、通常家族が使用している吸引器と仕様を比較

した。厚生労働省が進める主に介護福祉士に対する「医療的ケア」の喀痰吸引等研修に用いられるテキストにある圧と吸引時間を得られるかを参考とした。ヨックス SSD は圧の設定を $-6 \sim -30$ kPa に設定できる。通常の吸引圧は -20 kPa なので、圧としては充分、吸引時間は1分を超えることはまずないので、 $10 \sim 60$ 秒も充分。休止時間は $3 \sim 60$ 分である。これは吸引頻回の患者によってはもう少し休止時間が短い設定が欲しかったが、まずまず仕様としては充分と考えた。

自動吸引で心配なのは、粘膜に吸引口が吸いつき陰圧がかかり続け、それが刺激となって嘔吐反射を招いたり粘膜を傷つける可能性であろう。間歇持続吸引はこの点において持続吸引よりもよいと考えた。ヨックス SSD は吸引終了とともに大気圧に復帰するので安心感がある。ただし、すべての吸引口がふさがれていると陰圧が持続するので、吸引チューブの複数の穴すべてが閉塞することがないように工夫は必要と考えた。

結論として、ヨックス SSD による自動吸引は家族に好評だった。まず、見た目がよい。医療機器らしい品性がありコンパクトでベッドサイドに収まる。本体重量 2.2 kgで持ち運びもできる。外観だけでなく、設定どおりに正確に安定して吸引してくれる。作動音は静かで、気にならない。吸引の音はするが、夜中にズズ、と唾液が吸引される音を夢心地に聞き、家族は自分の代わりに機械が吸引してくれている、と嬉しく思

ったそうだ。

不満な点もあった。設定方法が少し煩わしいことに加えて、臨時に吸引を簡単に開始するボタンがない。吸引設定は必要最低限に抑えたいので、はじめは控えめにして、様子を見て圧や時間を増やしたが、調整できるまでは臨時の吸引が必要となる。口から唾液が流れそうなを見たら家族は従来の方法で吸引をするが、その操作が煩わしいと「持続吸引は役立たず」の印象

を持たれてしまう。家族や患者自身でも操作ができる簡便なスイッチが欲しい。

課題はあるが、少しの工夫で自動吸引はできると確信できた。自動吸引は、医療の専門家が本腰で取り組み機械メーカーと協力し改良が進めば、車の自動運転よりも早く叶い、問題となっている多くの負担が軽減されるだろう。ヨックス SSD はその夢をみせてくれた機械であった。



カフ上部吸引、 どうしていますか？

吸引圧や吸引時間を細かく設定できる、カフ上部吸引が可能。
吸引の回数を減らし、看護する方々の負担も大幅に軽減します。

製造販売元
株式会社 小池メディカル
〒132-0031
東京都江戸川区松島1-24-8
TEL: 03(5662)6605
<http://www.koike-medical.co.jp/>

カフ上部吸引器
yoxx.SSD
ヨックスSSD
Subglottic Secretion Drainage
認証番号 229AKBZX00016000



ヨックスディスプレイとの組み合わせ例